



# 見守るでも働きかけるでもない 子どもから見た親の“待つ”とは

## 問題視しないこと

本場の“待つ”とは

不登校新聞 2020.2.1号より  
小学生から不登校 喜久井ヤシシ (32歳)

「不登校」の子を持つ親へのアドバイスで、「待つ」ということがよく言われる。しかしこれほど実践が難しいこともないと思う。小学2年生のころ私がガッコウへ行かなくなっていたから、母は基本的に急かす態度ではなかった。登校への刺激を控えて、小言を言うのをガマンしていたように思える。しかし実際のところは、

「そんなことくらいで」と思うかも知れないが、傷口がある者には風が吹いただけでも痛むのだ。進学のパソコンレットがチラッと見えただけで絶叫に値する。親が学校案内やアルバイト情報誌を机に出しておくようなことがあれば、以前の私の神経ではまったく耐えられなかった。

「社会恐怖症」のときに社会的なものを見せられるのは苦しい。それはたとえなら「幼虫恐怖症」の子に幼虫図鑑を見せるようなもので

うに待たれても、小鹿が安心できるわけではない。私が「不登校で悩んでい」ときは、言うなれば「社会恐怖症」のような状態だった。あらゆるものが自分を攻撃してくるように感じ、過敏に反応してしまっ。授業や就労の話なんて聞てのほかに、「将来どうするの」なんて質問は驚天動地の混乱を引き起す。

「母の関心が外へ」  
しかし今振り返ってみると、私が高校に入ってから母の態度は「待つ」ものだったかも知れない。母は私を急かす言動がなくなり、趣味で登山クラブに入っ家空けるようになった。おかげで「不登校」に「極集中」していた心配が分散され、私もラクになった。

もたらずものだと思っさせる効果があった。親が友人と飲みに行ったり、映画に出かけたりして、家よりも外の出来事をおもしろがっているのであれば、自身の関心も外に向きやすくなる。

## お元気ですか

新型コロナウイルス感染症のニュースが連日報道されています。その中で『エアロゾル感染』という言葉が出てきたのですが、意味はだいた理解できました。(皆さんも職業柄、もうすでに調べていることと思います)必要以上に恐れず、いつもの対策をしていきましょう。免疫力UPのため、**保温** **栄養** **休息**が大事です。

## 折々のことば

藤田 清一 1713

人間というのは、男女とも、たのもしくはない人格にみりよくを感じないのである。  
作家が小学6年生に向けて書いた「二十世紀に生きる君たちへ」から。自分がより大きなものによって生かされていることを知ってほしい、他人の痛みを感じ「いたわる」人になってほしいとの、願いがこもる。「たのもし」は「頼り」になる「こと」。私の言い方だと「逃げ」なら「体を張って」くれる「こと」だ。「こんなときあいつがいたらなあ」と言ってもらえる人になりたいな。

司馬遼太郎

## 2020. 3月14日(土) スタート学習会

青森県教育会館 2F会議室にて

日程 ▶10~12時 委員会

▶12~13時 昼食(お弁当お持ち)

▶13~15時 学習会

※ 昼食は午後から参加の人にも出ます。集約が必要ですので3月6日(金)までご連絡ください。TEL 017-734-7219

## <学習会の内容>

- ・養護教諭・保健室の役割
- ・こんなことを聞きたい・知りたい

今泉文子先生、桑野三千代先生が話題提供してくれま。新年度が始まる前に学んでおこう。仲間に会うと元気にもなれるよ。仕事をしていく上で大事なものは、信頼関係を築くこと。4月、まずはそこからスタートです。

ラジオで蛭川実花さん(写真家)が話していました。「高校生の時制服(名札あり)のまま電車でポテロングを食べたら、学校から親に電話あり。父が『電車でお菓子を食ふることと本人の人格とは何の関連もないと思いますが、謝罪せよ』というので書きました」という手紙を出したんですよ。痛快! 納得できないことに向かう時、私も蛭川幸雄氏のような大ききで臨みたい。  
文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)



